Ⅰ　事業の状況

1　総　括

当研究所は、わが国教育の刷新充実に寄与することを目的とし、設立以来半世紀以上にわたって、文部科学省の管下で研究助成等の事業を進めてきました。11年前の平成 24 年からは公益財団法人に認定されて内閣府の所管となり、学校などへの研究助成、研究成果の刊行、野外教育活動の推進に加えて、医学・医療*e*ーラーニングや世界点字作文コンクールなどへ公益事業を拡大してまいりました。

本年度は、新型コロナウィルス感染症流行も減少し、日常を取り戻しつつある中で、次の事業を行いました。

◎　小・中学校や研究団体等への研究助成では、小学校2校、中学校3校、7研究団体、1学会に助成を行いました。

研究内容のテーマを挙げると、「主体的に学び合う児童生徒の育成」「自ら学ぶ力を身に付け、生き抜く力をはぐくむ」「地域課題に対する探究的な学びの在り方」「アドベンチャー教育を学校・地域・家庭に」「デジタル技術の教育現場への実践活用法」「理論と実践の往還をめざした算数教育」「数学の見方・考え方を働かせる教材の開発」「家庭教育に関する理論的・実践的研究」など生徒の自律や学びの向上を高めるものを中心に多様でした。

◎　研究成果は「教育研究情報」誌に掲載して発行、当研究所のホームページにもアップして、成果の普及を図りました。

◎　野外教育では、自然体験活動の指導者を対象に、教材（アイオレシート）を使い実技指導中心の講習会を開催していましたが、今年度は諸般の事情により一時中止といたしました。

従い「野外教育情報」も今年度は発行しませんでした。

◎　医学・医療分野では、*e*-ラーニングを推進するMEDI@（メディアット）システムのもと、セミナー等の講演・講義の収録・配信、*e*-ラーニング利用への支援（日本東洋医学会）、資格認定のための*e*-ラーニング利用（日本リハビリテーション医学会）、専門医養成のための支援（日本専門医機構）などを行いました。

◎　視覚障害者を対象とした「世界点字作文コンクール」の今年度の支援は資金の不足により中止いたしました。

今後とも公益事業の着実な展開を図り、実りある成果を挙げていく所存ですので、ご指導とご支援をお願い申し上げます。

2 助成等事業概要

A.研究実践校への助成

時代の課題に応える研究、教育内容を深める研究、地域に根ざして地道に意欲的な研究に取り組む学校を選んで、支援のための研究助成を実施した。

○算数科教育（広島県）竹原市立荘野小学校　（藏本利恵　校長）

〒725-0002　広島県竹原市西野町2025

研究主題「主体的に学び合う児童生徒の育成」

～数学的な見方・考え方を働かせ、学びを深める授業づくり～

＊令和元年から4年間、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた算数科の授業づくりに取り組み、対話を通して考えを練り合う授業が増える等、授業改善が進んできた。令和5年度は、これまでの授業づくりをベースに、理論研修を基に、研究授業を通して、主体的に学び合う児童の育成を行った。児童が数学的な見方・考え方を働かせ、思考を深めることができる授業づくりに取り組むことができた。

○安全教育（高知県）土佐市立蓮池小学校　（吉門直子　校長）

〒871-1105　高知県土佐市蓮池1347-2

研究主題「自ら学ぶ力を身に付け、生き抜く力をはぐくむ」

～気づき・感じ・伝え合うことを大切にした安全教育の日常化～

＊より効果的な安全教育となるよう、各学年の目標を明確化し、教科等横断的な視点で教育課程に位置付けた指導計画を見直すとともに、「子どもたちが何を身に付け、何ができるようになったか」という視点で様々な活動を行った。研究授業や防災1day キャンプ、ぼうさい探検隊マップコンクールへの参加、交通安全（ヘルメット着用）講演会などを行い、安全に関する得た知識を実践できるようにした。

○総合的な学習教育（長野県）長野市立戸隠中学校　（竹腰益臣　校長）

〒381-4102　長野県長野市戸隠豊岡2960

研究主題「地域課題に対する探究的な学びの在り方」

＊総合的な学習の時間を使い、これまでの探究学習に STEAM 教育の考え方を取り入れ、戸隠地域の現代的課題に向き合い、さまざまな視点から課題解決に資する提案や実践を行った。1･2年生が年間を通して地域での様々な体験学習を行い、地域に向け実践発表を行った。

○生徒指導教育（静岡県）袋井市立周南中学校　（柴田禎弘　校長）

〒437-0123　静岡県袋井市下山梨1-1-1

研究主題「すべての生徒が笑顔でがんばれる学校を目指して、生徒一人一人に温かいまなざしを送り続ける生徒指導体制の確立」
～1 人1台学習端末の活用によるいじめ･不登校未然防止を軸にした魅力ある学校づくりを推進する生徒指導体制の確立～

＊1人1台端末を活用した不登校未然防止策として、生徒が日々の身体の状態を報告するwebアプリ「デイケン」を導入した。また、重層的支援構造に基づいた組織･体制づくりに取り組んだ。特別な支援が必要な生徒の対応を定期的に検討する2nd,3rdkaigi 会議を新設し、誰一人取り残すことなく、組織的に支援する体制づくりに努めた。また、学校運営協議会の力を借りて、不登校生徒の保護者を支援する会も新設した。

○特別活動(学級活動)教育（沖縄県）沖縄三育中学校　（増田　敦　校長）

〒905-0003　沖縄県名護市旭川837

研究主題「非認知能力育成をめざした自然体験活動実践モデルの構築とその効果検証」

＊現代社会は「予測困難な社会」と呼ばれている。この時代を生きていくためには「非認知能力」の習得が必要である。そこで、自然体験活動の実施方法に着目し、非認知能力を育む実践モデルを構築、その効果を検証することができた。具体的には他者との協働型体験活動(トレッキング、川探検、ネイチャーゲーム)及び問題解決型体験活動(チームビルディング、リスク)の自然体験活動の実践を行ったことによる。

計1,000,000円

B. 教育現場への助成

学校の教諭や大学教官等学校現場を主体とした研究団体・学会等に対して、支援のため助成を行う。研究テーマは、教科領域のほか、特別活動、道徳教育、情報教育、障害者教育、家庭教育、国際理解教育、環境教育等の分野としている。

○ MAP(みやぎアドベンチャープログラム)研究会

(代表:佐々木 利佳子／宮城県教育庁副教育長)

〒981-0412 宮城県東松島市宮戸字二ツ橋1番地

宮城県松島自然の家

アドベンチャー教育を学校・地域・家庭に

＊MAP(みやぎアドベンチャープログラム)は学校の授業をはじめ、学級活動、部活動、学校行事等、地域における児童生徒の諸活動に課題解決型体験学習法の一つである「プログラムアドベンチャー」の考え方や手法を取り入れ、豊かな人間関係に基づく充実した生活ができることを目的とした宮城県独自の教育手法である。

MAP のさらなる普及と学校教育以外への広がり、ファシリテーターと呼ばれる指導者の質の向上のため、令和5年度は次の3点を目標に年間10回の講習会・研修会・体験会等を実施し成果を上げることができた。

・MAP の実践・指導者としての個々人の技術向上をとともに MAP の普及を図る活動ができた。

・教育活動での MAP の効果的活用を図るための調査・研究を行う活動ができた。

・MAP 実践活動の発信を積極的に行うとともに、情報共有の機会をもつ活動ができた。。

○慶応義塾大学 SDM 研究所メディアシステムラボ有志会

(代表:柳瀬恭一 ／日本大学医学部兼慶応義塾大学 SDM 研究所研究員)

デジタル技術活動による、コロナ禍における芸術活動実施方法の研究

＊当団体は、2021年に AFF(ARTS for the future:コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)という、コロナ禍における芸術活動促進を目的とした文化庁事業と並行する形で立ち上がった団体である。研究科の博士課程の大学院生や研究員によって団体は構成されている。結成以降、年に数回のペースで VR(Virtual Reality)を活用するイベントを企業、財団の協力を得て行ってきた。本年度は伝統芸能分野の芸術家に依頼し、コロナ感染対策を行いながら、野外イベントにて演技をしてもらう等の活動をおこなった。開催した場所は、代々木公園、大手町、慶応義塾大学日吉キャンパスで、これら

のデジタル技術を用いた伝統芸能活動が、今後の教育現場におけるデジタル技術の活用の参考になるものと考える。

○英語教育　カレイラ松崎順子　英語教育研究会

（代表者：カレイラ松崎順子／東京経済大学　第三研究センター3208）

〒185-8502　国分寺市南町1丁目7—34

図書館での英語活動プログラム　～教育格差対策としての子ども英語図書館の可能性を探る～

＊韓国政府は所得格差から生まれる英語力の格差をなくすため、様々な対策を行ってきた。そのような対策の一つが子ども英語図書館である。韓国の子ども英語図書館は英語の図書を提供するだけではなく、キャンプや英語プログラムなどを無料または廉価で提供している。日本でも近年教育格差が問題になっているが、特に小学校に教科化されたばかりの英語の教育格差は広がっている。ゆえに、本研究では韓国のような英語図書館の設立の可能性を探るため、大学教員・大学生が中心となって図書館での英語活動を定期的に行い、韓国のような英語プログラム、特に CLIL（内容言語統合型学習）をベースにしたプログラムの構築・実践・評価を行った。

○ GIGA スクール　横浜メディア教育研究会

（代表者：後藤大二郎／佐賀大学大学院学校教育研究科）

〒840-0042　佐賀県佐賀市本庄町1番地

（事務局長：鈴木輝美／横浜市立深谷小学校）

〒244-0817　神奈川県横浜市戸塚区吉田町 1724-2-8033

GIGA 端末活用から情報活用能力へシフトアップ

＊今年度は GIGA スクール3年目として、一人一台端末を足場としながら、さらに授業研究を充実させるために、実践提案等を行った。実践提案や対談などをもとに、参加者と議論を深める研究会をオンラインと対面を織り交ぜて実施した。また、D-Project,日本デジタル教科書学会とのコラボ研究会も実施した。幅広い校種等の発表と様々な職種の参加者により、各回とも盛会となった。

○ SCIENTIA（スキエンティア）

（代表者：高橋政宏　／藤枝市立青島中学校）

〒426-0078　静岡県藤枝市南駿河台6-1-3-55

「料理好き」の子どもを育むための実践的研究～教師の豊かな教育観と授業スキルに裏付けられた授業をとおして、「料理好き」の子どもを育む～

＊目的に迫るための以下4つに重点を置いた。

・教師の豊かな教育観の涵養

・教師の豊かな授業スキルの習得
・「探究の過程」を意識した授業実践
・個別最適な学びと協働的な学びと一体的な充実

上記を実施するために、毎月一回の定例会や、年一回の特別企画等を開催した。本取組を通して、会に参加した多くの教師が、豊かな教育観を涵養し、授業実践に生かすことができた。

○算数教育　アウトプット算数研究会

（代表者：木村憲太郎／大阪総合保育大学）

〒596-0812　大阪府岸和田市大町3丁目―22―1

理論と実践の往還をめざした算数教育

＊書籍や算数教育に関する学会・研究会では、多くの学習理論が紹介・報告されている。しかし、大学教員が学校現場に来て、現職教員に学習理論を伝達したり、指導したりする機会は、そう多くはなく、皆無に等しい学校もある。また、現職教員が創意工夫を凝らした実践を行ったとしても、その実践を報告・議論する場は少ない。そこで本研究会は、主に算数教育を専門とする大学教員と算数科の研究・実践に熱心な小学校の現職教員が集まり、月一回程度の間隔で、大学教員は主に算数教育に関する学習理論を、現職教員は自身の実践を伝達（アウトプット）し合い、議論を行った。その結果、理論と実践の往還ができ、学校現場での算数教育の質の向上が実現できたと考える。

○算数教育　広島県中学校数学教育実践研修会

（代表者：天野秀樹／広島大学附属東雲中学校）

〒734-0022　広島市南区東雲3丁目―1―33

数学の見方・考え方を働かせる教材の開発

＊広島県内の中学校数学科教師の実践力向上を目指して、年会及び5回の授業づくり研修会を通して、子供たちが数学の見方・考え方を働かせる教材を作りあげ、数学科教師の実践力を高めることができた。

○家庭教育　日本家庭教育学会

（代表者：中田雅敏／八洲学園大学特任教授）

〒102-8561　千代田区紀尾井町4－5（一社）倫理研究所内

（事務責任者：嚴錫仁／筑波大学人文社会系准教授）

〒305-8871　茨城県つくば市天王台1－1―1　筑波大学

家庭教育に関する理論的・実践的研究

＊今年度はコロナ禍の後の家庭教育の研究・実践の活性化を目指して、夏の大会及び常任理事会、会報と研究誌の発行、家庭教育師・アドバイザーの交流会など、学会活動の充実

を図った。第38回大会は貞静学園短期大学を会場とし、「知育・徳育・体育と家庭教育」というテーマを掲げて、午前の部の10本の研究発表及び午後の部の講演と質疑討議を行った。その他、家庭教育師資格認定(2回)、学術研究論文集『家庭教育研究』29号の刊行、会報の発行(111号、112号)を行った。また家庭教育師・家庭教育アドバイザー交流会を開催した。その他、これからの会務の運営にかかわる常任理事・幹事会(4回)および総会を行った。

計1,000,000円

C. 野外教育活動について

野外教育(特に自然体験活動)の推進に向けて、指導者養成の講習会の実施、また、実践記録や情報等を集めて編集する機関誌「野外教育情報」ニュースレターを年2回発行しておりましたが、しばらくは休止といたします。

D. 研究報告誌の刊行

前年度に研究助成を行った研究実践校や地域研究団体・学会等の研究成果を掲載した「教育研究情報」誌を年1回発行し、教育研究資料としてホームページに掲載する。

○「教育研究情報」の刊行

令和6年12月頃の発行を予定。前年度に研究助成を行った研究実践校、研究団体や学会等の研究の成果を掲載しホームページに掲載する。現在は第55号まで発行している。

計 238,700円

E. 世界点字作文コンクールへの支援

視覚障害者の方々に点字と音声の架け橋を築くため、オンキヨー株式会社と毎日新聞社点字毎日とが平成15(2003)年に創設、その後世界規模(現在は世界4地域128か国)に発展した。

国内・海外両部門で優秀作品を選考・表彰し、入選作品は、点字と活字を併記した作品集として、全国の盲学校、点字図書館、公共図書館1,200個所に寄贈している。尚、資金の不足によりしばらくは休止といたします。

F. 医学・医療教育及び教育技術への助成・研修支援

医学・医療分野での教育及び教育技術の充実・刷新に寄与するため、インターネットを利用した教育や研修を実施・計画している学会・医療機関等に対して、MEDI@(メディアット)システムの導入、コンテンツ等の制作と配信、当該システムを利用した研修プログラムの整備・運営等に対して支援や助成を行い、この分野での e—ラーニングの普及・発展を目指す。

○公益財団法人日本リハビリテーション医学会

インターネットを利用しての教育・研修、専門医資格の取得・更新のための単位取得等を目的とした、e—ラーニングシステムの運用・管理、コンテンツの制作、配信などを支援する。

○一般社団法人日本泌尿器科学会

インターネットを利用しての教育・研修、専門医資格の取得・更新のための単位取得等を目的とした、e—ラーニングシステムの運用・管理、コンテンツの制作、配信などを支援する。

○一般社団法人日本専門医機構

インターネットを利用しての教育・研修、専門医資格の取得・更新のための単位取得等を目的とした、e—ラーニングシステムの運用・管理、コンテンツの制作、配信などを支援する。

○その他の学会・病院等への支援

一般社団法人日本東洋医学会、岡山大学病院等の e—ラーニングシステムの構築・運用、コンテンツの制作、配信など、その利用推進を支援する。

計 9、006, 839円

以 上